2014 年度 京都薬科大学 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」
「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御よる環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」
合同成果発表会実施報告書

日時：平成 26 年 11 月 29 日（土）13:30 ～17:30
場所：京都薬科大学 愛学ホール（講演会場）および躬行館食堂（ポスター会場）
参加者数：128 名（職員 43 名、学部生 ・大学院生 83 名、企業関係者 2 名）
プログラム
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
＜開会の挨拶＞
乾 賢一（京都薬科大学長）
＜バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立＞
「プロジェクトの概要について」
安井裕之（代謝分析学分野・教授、代表）
「ビスホスホネート系薬剤による消化管傷害における生体内微量金属とのキレート形成との関連」
天ヶ瀬紀久子（薬物治療学分野・講師）
「低浸透圧処理アストロサイトから放出された亜鉛はミクログリアを活性化するグリオトランスミッタである」
瀬川将平（衛生化学分野・大学院博士課程）
「リチウムの体内動態と消化管吸収」
坂根稔康（薬剤学分野・准教授）
「シスプラチン投与患者における血清中バイオメタル濃度の変動解析」
中村 任（姫路獨協大学薬学部・教授）
＜私学助成により導入された大型機器の紹介と現状の報告＞
小暮健太朗（薬品物理化学分野・教授）
＜生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成＞
「プロジェクトの概要について」
小暮健太朗（薬品物理化学分野・教授、代表）
「効率的な腫瘍への送達とがん細胞特異的な薬物放出が可能な腫瘍微小環境応答性ナノ粒子の開発」
濵 進（薬品物理化学分野・講師）
「活性酸素消去能に優れた白金ナノ粒子の肝臓ターゲティングによる肝虚血・再灌流障害の抑制」
草森浩輔（薬剤学分野・助教）
「Oxaliplatin 誘発性味覚障害発症メカニズムの解析 ～甘味感受性及びその味受容体発現への影響～」
西田健太朗（衛生化学分野・助教）
＜「バイオメタル」および「ナノ DDS」のポスター発表および交流会＞
「バイオメタル」から 12 演題、「ナノ DDS」から 14 演題のポスター発表
＜閉会の挨拶＞
後藤直正（京都薬科大副学長）
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

2014年11月29日(土)に愛学ホールおよび躬行館食堂にて2014年度の成果発表会を開催しました。今回は、本学の二つの文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業である「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立（代表：安井裕之)」(以下「バイオメタル」）と「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成（代表：小暮健太朗)」(以下「ナノDDS」）の合同発表会といたしました。発表会では、学内で本プロジェクトに参画する全ての教員が会し、各々のプロジェクトにおける研究成果が、口頭（7演題）およびポスター（26演題）により発表されました。また、学外研究者としてご参画いただいている姫路獨協大学の中村 任先生、徳島大学の清水太郎先生、名古屋市立大学の竹内堂朗先生、高 琦琦先生らも口頭およびポスター発表をされました。加えて、21世紀以降で文部科学省の私学助成事業により本学へ導入していただいた大型機器の紹介も行われました。

発表会当日は、128名の方々（職員：43名、学部生・ 大学院生：83名、企業関係者：2名）の参加のもと、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。大勢の学部生・大学院生も参加していただき、特に13名の学部生が自らポスターで発表されたことから、本学の研究面におけるアクティビティーの高さを十分に感じてもらえたのではないかと思っています。

文部科学省から供されている本プロジェクトのミッションは、「研究拠点の形成」と「若手研究者の育成」であります。本成果発表会を1つの契機として学内・学外共同研究が活性化されるとともに、次代を担う若手研究者の育成に繋がることを期待しています。今後も、定期的にプロジェクトによる成果発表会を開催していくことで、本学におけるリサーチマインドの醸成と研究アクティビティーを維持できるように尽力していきたいと考えています。

研究代表者：安井裕之、小暮健太朗

乾学長による開会の辞

小暮教授（DDS代表）

安井教授（メタロミクス代表）

参加人数 計128名
教職員：43名
学部生・大学院生：83名
企業関係者：2名

濵 講師（DDS）

草森 助教（DDS）

瀬川 院生（メタロミクス）

姫路獨協大学の中村 教授（メタロミクス）

西田 助教（DDS）

天ヶ瀬 講師（メタロミクス）

坂根 准教授（メタロミクス）

活発な討議が行われました。

全参画分野によるポスター発表も行われ、質疑応答が行われました。

後藤副学長による閉会の辞